

★ベネズエラのマドゥーロ大統領が国連総会で演説

ベネズエラのマドゥーロ大統領は9月28日、国連総会で演説し、米国による干渉主義を強く非難するとともに、独立と主権の擁護を強調、独自の社会主義モデルを追求する革命を続けていくと宣言した。ベネズエラをめぐるニューヨークでの国連外交の模様を teleSUR の報道からまとめた。

マドゥーロ大統領は国連演説の冒頭から次のように述べた。

2世紀前、植民地主義とたたかって決して屈することなかった国、歴史的な人々の国の眞實を語りに来た。解放者シモン・ボリバルの生誕地を誇りにしている人々の声を届けにきた。米政権からあらゆる攻撃をうけている。米国が強化した金融制裁は、交換レートの支配を使うもので、国際法違反だ。米国との紛争は「両国の歴史的な紛争」であり、モンロー主義の帝国主義ドクトリンとシモン・ボリバルから引き継いだ正義と自由のドクトリンとのたたかいだ。帝国主義と主権を守る人民のたたかいとの歴史的な対決だ。

大統領は続いて、8月4日におきたドローンによる暗殺未遂事件や、米紙が報じた米国によるクーデター・グループとの協議の報道にふれて、干渉主義を批判した。一方、トランプ大統領と何についても話し合う用意があると強調。ベネズエラは非同盟運動の議長国として、国際紛争について力ではなく話し合いによる政治解決を支持してきた。たとえばOPECの監視グループの会議でも、参加する24カ国は体制や意見の違いがあるが、ともに話し合いに参加して石油価格の安定化をめざして全会一致できめた。だから紛争の話し合い解決の方法がある、とのべた。

8月にベネズエラは新しい経済再生計画をはじめた。独自の社会政策モデルを追求する。冷戦と一極体制は終焉した。多極化の世界をむかえている。他国の単一のモデルを押し付けうることはできない。非同盟と正義の世界を迎えている。パレスチナ人民への支持と連帯を表明する。キューバへの封鎖解除を要求する。帝国主義と植民主義の時代は終わった。ベネズエラはあらゆる分野で攻撃をうけているが、我々は戦いの中で鍛えられ強化された。断固としてわれわれの21世紀の社会主義モデルを追求してく。これは正義と尊厳の革命だ、とのべた。

最期に、国連で行われた南アのマンデラ記念の集会にふれ、人種差別と植民主義と勇敢にたたかった彼に荣誉を捧げる。30年前彼は米国からテロリストと非難されていた。最近まで制裁の対象にされ迫害されていた。人類と国連の未来を信じる。ベネズエラは降伏しない。たたかい続ける、とのべて演説を結んだ。

◇非同盟閣僚会議を主宰

国連総会が開催中の国連本部で 26 日、非同盟諸国による閣僚会議が開かれた。非同盟運動議長国ベネズエラのホテル・アレアサ外相が司会をした。

アレアサ外相は、各国にたいし平和の促進と内部問題不干涉、人権と人民の自決権擁護の努力をよびかけた。ベネズエラへの米国の攻撃を非難、クーデターの試みや石油サボタージュ、政治暴力の誘導、一方的な強制措置や経済戦争、軍事脅迫の干渉などを上げ、世界で使われている戦争の新しい戦術は諸国の主権を侵害し、国連憲章と国際法に違反していると批判した。またメディアが作り上げている移民の危機を想定した紛争は、口実にすぎず、実際はベネズエラにたいする米国からの貿易、経済、金融制裁をもたらしていると強調した。そのうえで、問題解決のために最近、政府が始めた経済再生計画への各国の支援を呼びかけた。会議では、ニカラグア外相がベネズエラへの支持を表明し、マドゥロ政権にたいする暗殺未遂行為を糾弾した。

アレアサ外相はまた、国連本部で 24 日に開かれた「ネルソン・マンデラ平和サミット」に参加、非同盟諸国を代表して、世界の正義と永続平和への努力をよびかけた。



◇マドゥーロ大統領、キューバ議長とともにハーレムを訪問

マドゥーロ大統領は 27 日、キューバのディアスカネル議長とともにハーレムのリバーサイド協会で行われた集会に参加した。同教会は、キング牧師が 1967 年に初めてベトナム戦争反対を宣言するなど、数々の進歩的人士を迎えた集会がおこなわれたところで、故ネルソン・マンデラやフィデル・カストロなどもここで演説を行った。マドゥーロ大統領の国連出席は安全上の理由から疑問がもたれていたが、2015 年以来の出席となった。総会では前日にトランプ大統領が強いベネズエラ批判を行い、新たな制裁を宣言したが、教会での集会ではキューバ議長とともに 2000 人の参加者から熱い連帯の拍手を受けた。大統領は「ベネズエラ国民の真実を伝えにきた」とのべた。キューバのディアスカネル議長は、連帯と正義とよりよい世界へのキューバ人民の揺るがぬ決意を確認しにきた」「ベネズエラとともに米国の友人たちから愛を受けている」と述べた。



◇各国からベネズエラへの支持表明

国連総会では一連の国から米国による制裁と脅迫に反対する諸国の支持をうけた。ボリビアのモラレス大統領は、一方的で違法な措置はやめ軍事干渉の脅しをやめよと要求しベネズエラの問題はベネズエラの国民が解決すべきだ、と強調した。ニカラグアのモンカダ外相も、米国のキューバ封鎖とベネズエラ制裁を干渉と強く非難し、主権の原則を守ると表明した。エルサルバドルのサンチェス大統領も軍事力をひけらかす米国を批判し、「外部大国からのあらゆる軍事干渉の脅しを拒否する」と述べた。中国の王毅外相は「各国は独自の発展の道と社会システムを選択する権利がある」と強調した。二国間会談のなかで、ロシアのラブロフ外相は、ベネズエラへの「完全な支援の用意」を表明した。またイランのロウハニ大統領は記者にたいして「イランとベネズエラ人民は米国による継続的な侵略と制裁をうけている」と語った。

◇右派政権が国際刑事裁判所に提訴したが

カナダと南米の右派政権の諸国は、ベネズエラが殺人と拷問など人道にたいする罪を犯しているとして国際刑事裁判所に調査を求める公式の要請書を提出した。要請をだしたのは、カナダとアルゼンチン、チリ、コロンビア、ペルー、パラグアイの6カ国で、米州機構（OAS）の報告書とともに提出された。しかしこれまで反ベネズエラの動きを主導してきたリマ・グループ（17カ国）のうち11カ国は同調しなかった。そのためベネズエラを孤立させようとした新たな試みは、逆にベネズエラの勝利とみなされている。ベネズエラ政府から訴追をうけコロンビアに亡命しているオルテガ元検事総長は、ニューヨーク入りしたマドゥーロ大統領の逮捕を米政府に要求したが失敗した。一方、ジュネーブの国連人権委員会はベネズエラにたいし、外国主導の人道支援をベネズエラのが受け入れるよう求める決議案を採択した。ベネズエラ政府は必要ないとして反対している。

（以上 T e r s u r の報道から抜粋）